

C o m p a c t P C I

C P U ボード

a P C I - 8 0 1 0

ユーザーズマニュアル

株式会社 **アドテックシステムサイエンス**

1.

2.

3.

4.

保証規定

1. 保証の範囲

1.1

1.2

1.3

2. 保証条件

2.1

2.2

2.3

2.4

2.5

目次

ご注意	i
製品の保証について	ii
保証規定	ii
1. 保証の範囲	ii
2. 保証条件	ii
MEMO	iv
目次	v
はじめに	vii
安全上のご注意	viii
 警告	viii
 注意	ix
第1章 製品概要	1
1.1 概要	2
1.2 製品構成表	2
1.3 各部の名称	3
1.4 CD-ROMドライブ接続方法	5
第2章 初期設定と実装	7
2.1 メインボードのコネクタ	8
2.2 メインボードのピンアサイン	9
2.3 ドータボードのコネクタ	12
2.4 ドータボードのピンアサイン	13
第3章 BIOSセットアップ	17
3.1 メニューと項目	18
3.2 Main メニュー	20
3.3 Main メニューのサブメニュー	21
3.4 Advanced メニュー	25
3.5 Advanced メニューのサブメニュー	26
3.6 Power メニュー	30
3.7 Exit メニュー	33

第4章 ドライバのインストール.....	35
4.1 VGA ドライバのインストール.....	36
4.2 LAN ドライバのインストール.....	38
第5章 その他の機能	41
5.1 ウォッチドッグタイマ機能	42
第6章 製品仕様	45
製品のメンテナンスについて	a
製品のお問い合わせについて	b

DOS/V

Windows®

DOS/V

Windows®

DOS/V

Windows®





IC

第1章

製品概要

1.1 概要

aPCI-8010 は、米国 PICMG (PCI Industrial Computers Manufactures Group)による産業用の PCI 規格である CompactPCI 規格に準拠したシングルボードコンピュータです。

PC/AT 互換機のマザーボード機能を持った PFU 社製カードプロセッサを搭載し、コンパクトな 3U サイズでありながら基本性能はもちろん、VGA、LAN、USB、Compact Flash を搭載したオールインワン設計となっています。

1.2 製品構成表

本ボードは次の 8 点より構成されています。開封後、すぐにご確認ください。付属品の添付には万全を期しておりますが、万一、不良品や不具合等がありましたら、お買い求めの販売店もしくは弊社までご連絡ください。

1	本体 a P C I - 8 0 1 0
2	キーボード / マウス分岐ケーブル
3	プリンタケーブルアダプタ
4	ユーザズマニュアル (本書)
5	お客様登録カード / 保証 1
6	標準ドライバ 1 式 3.5 インチフロッピーディスク 2
7	IDE 延長ケーブル
8	電源ケーブル

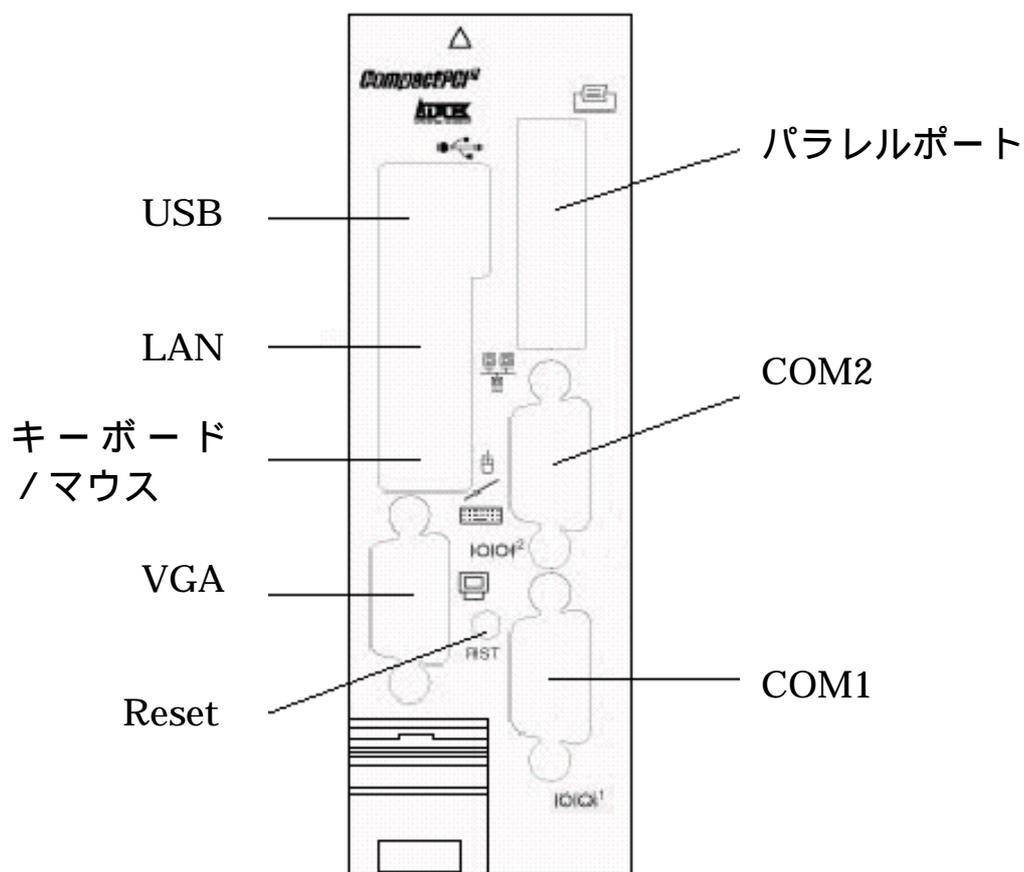
1 お客様カードにご記入の上、是非ともご返送ください。お客様がお買い求めになったボードに万一の故障があった場合などに素早く対応できます。また、よろしければ裏面のアンケートにもご協力ください。アドテックシステムサイエンスは今後もお客様の声を活かした製品作りを心掛けてまいります。

2 添付している 3.5 インチフロッピーディスクには、LAN、VGA のドライバが含まれています。

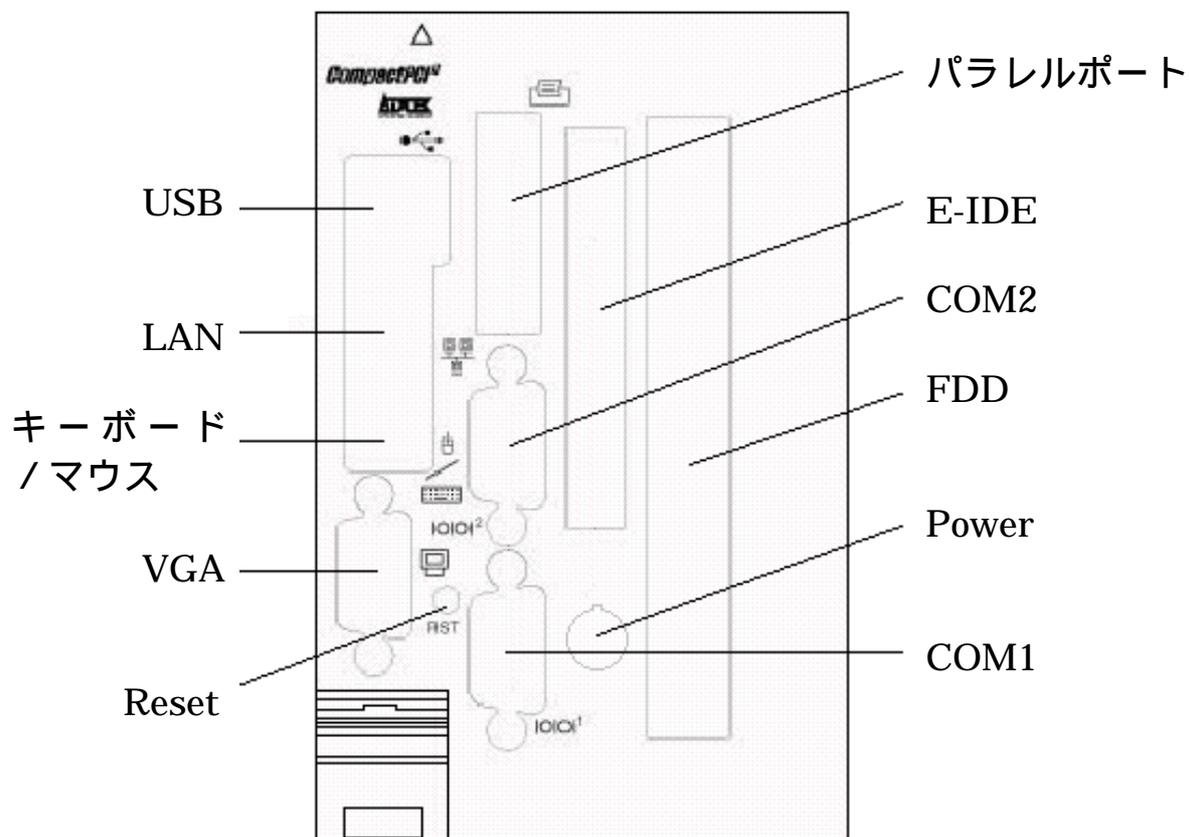
1.3 各部の名称

ジャンパとコネクタに関しては第 2 章をご覧ください。

フロントパネル



本パネル図は a P C I - 8 0 1 0 / 4 B、 a P C I - 8 0 1 0 / 5 B に適用されます。



本パネル図は a P C I - 8 0 1 0 / 4 S、 a P C I - 8 0 1 0 / 4 F、 a P C I - 8 0 1 0 / 5 S、 a P C I - 8 0 1 0 / 4 F に適用されます。

1.4 CD - ROM ドライブ接続方法

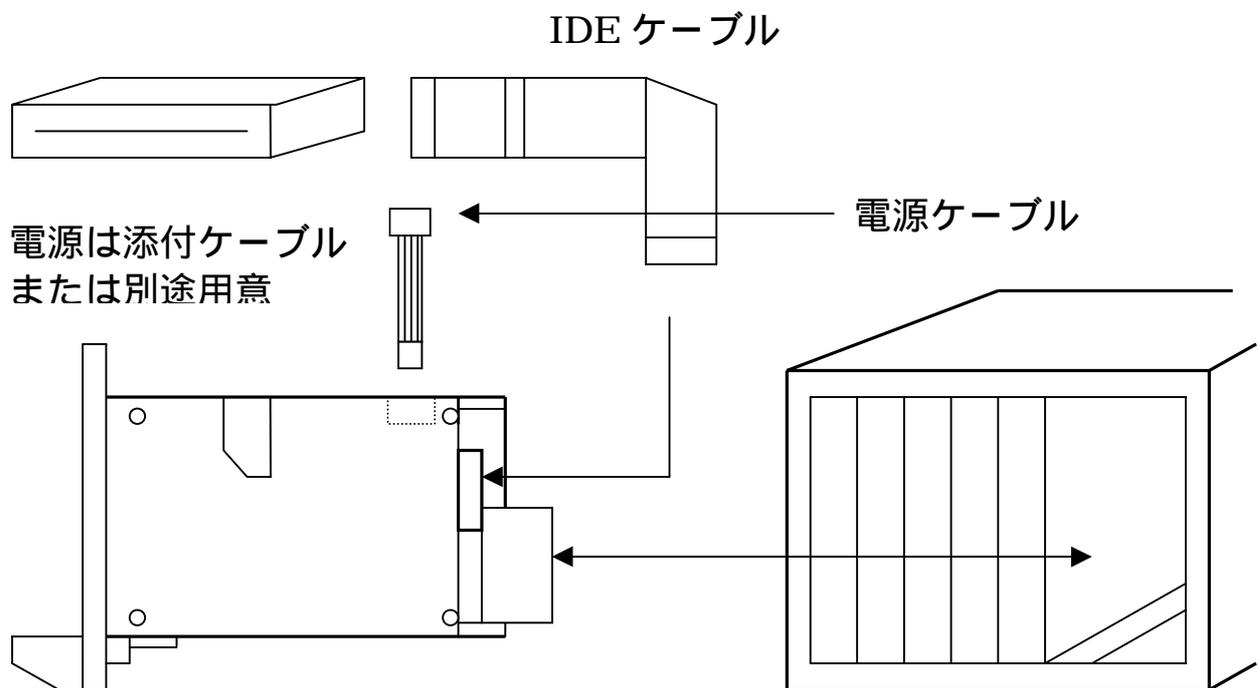
aPCI - 8010 / xB の場合

添付の IDE 延長ケーブルを用います。

1. 本体の電源スイッチを OFF してください。
2. ドータボード端にある 2.5 インチ HDD 用 IDE コネクタに IDE 延長ケーブルをつなぎます。

CD-ROM ドライブの電源は添付の電源ケーブルを使用するか、または別途ご用意いただき電源をとってください。

注意：外部で CD - ROM または HDD を接続する場合、ラックのシステムスロット右側に十分な空きを用意してから CPU ボードを挿入してください。ケーブルへの不具合が発生する可能性があります。

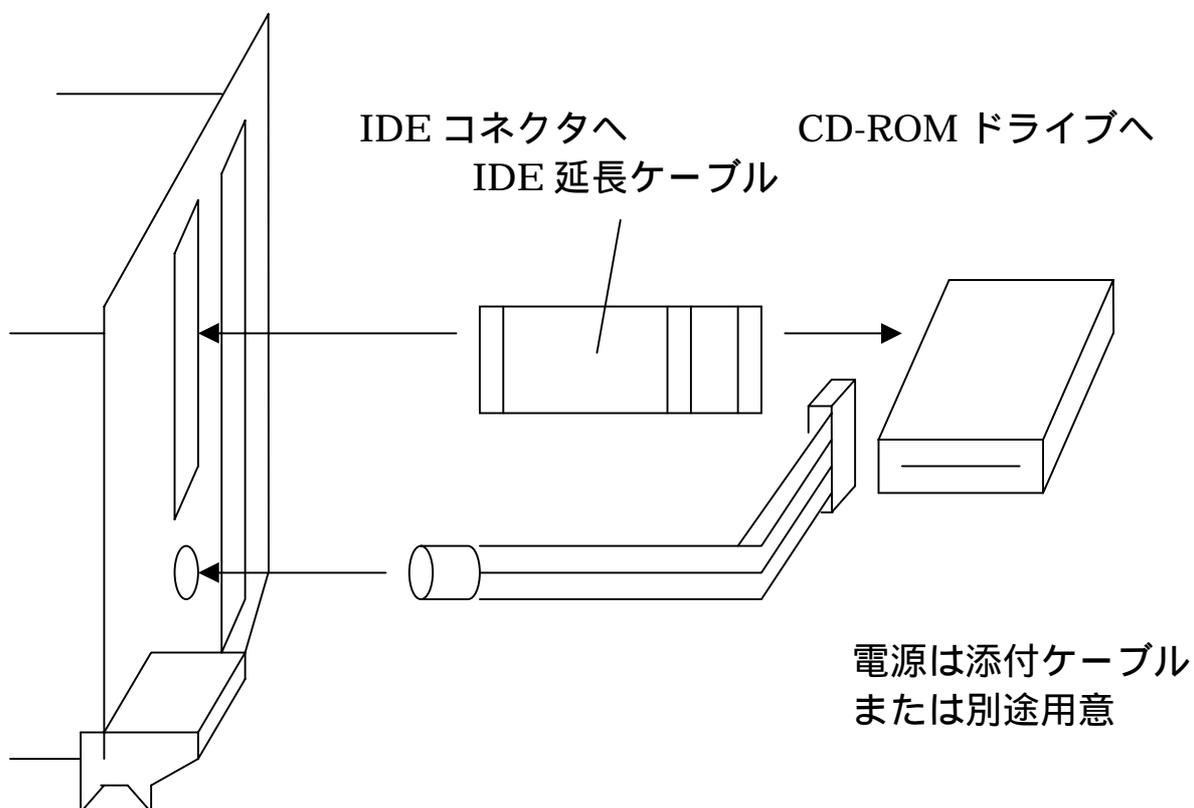


aPCI - 8010 / xS、aPCI - 8010 / xF の場合

添付の IDE 延長ケーブルを用います。

- 1．本体の電源スイッチを OFF してください。
- 2．前面パネルにある IDE コネクタに IDE 延長ケーブルをつなぎます。

CD-ROM ドライブの電源は添付の電源ケーブルを使用するか、または別途ご用意いただき電源をとってください。



第2章

初期設定と実装

2.1 メインボードのコネクタ

CPU ボード上のコネクタは、他のデバイスへのインターフェイスを供給しています。

以下にメインボードのコネクタ位置について記します。

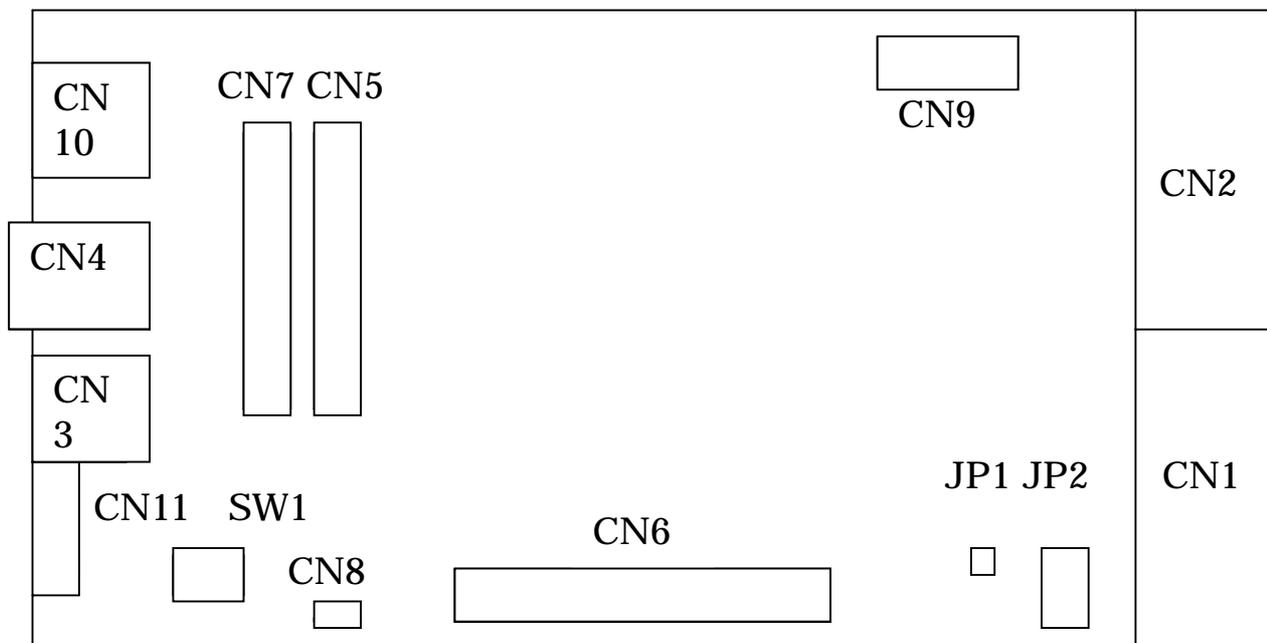


図 2 - 1 メインボード上のコネクタ、ジャンパ位置

リファレンス	機能
JP1	未使用（注：ショート状態のままご使用ください）
JP2	未使用（注：オープン状態のままご使用ください）
SW1	リセットスイッチ
CN1	CompactPCI バス用コネクタ（J1）
CN2	CompactPCI バス用コネクタ（J2）
CN3	Keyboard & Mouse コネクタ
CN4	LAN コネクタ
CN5	PFU スタッキングコネクタ
CN6	ドータボード接続用コネクタ
CN7	PFU スタッキングコネクタ
CN8	ファン用コネクタ
CN9	電源用コネクタ
CN10	USB コネクタ
CN11	VGA コネクタ

2.2 メインボードのピンアサイン

CN3 : キーボード/マウスコネクタ (PS/2)

ピン NO.	説明
1	Keyboard Data
2	Mouse Data
3	GND
4	+5V
5	Keyboard Clock
6	Mouse Clock

CN4 : LAN コネクタ

ピン NO.	説明
1	NWTD +
2	NWTD -
3	NWRD +
4	NC
5	NC
6	NWRD -
7	NC
8	NC

CN8 : 電源コネクタ

ピン NO.	説明
1	+ 5V (RED)
2	Sense (YELLOW)
3	GND (BLACK)

CN9 : 電源コネクタ

ピン NO.	説明
1	+ 5V
2	GND
3	GND
4	+ 12V

CN10 : USB コネクタ

ピン NO.	説明
1	VCC
2	DATA0 - / DATA1 -
3	DATA0 + / DATA1 +
4	+ GND

CN11 : VGA コネクタ

ピン NO.	説明
1	Red
2	Green
3	Blue
4	NC
5	GND
6	GND
7	GND
8	GND
9	NC
10	GND
11	CRT Sense
12	DDC2BD
13	Horizontal Sync

1 4	Vertical Sync
1 5	Display Data Channel Clock

2.3 ドータボードのコネクタ

以下にメインボードのコネクタ位置について記します。

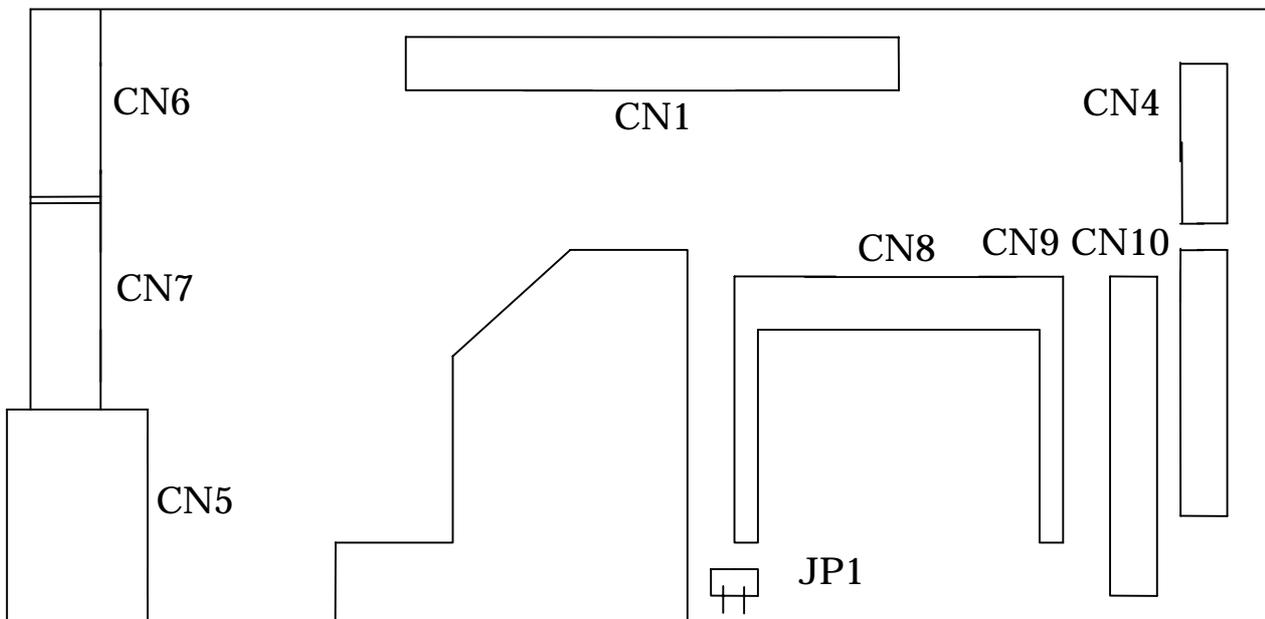


図 2 - 2 ドータボード上のコネクタ、ジャンパ位置

リファレンス	機能
JP1	CompactFlash Master / Slave 切換え ショート： Master オープン： Slave
CN1	ドータボード接続用コネクタ
CN4	フロッピーディスクドライブ用コネクタ
CN5	パラレルコネクタ
CN6	COM1 コネクタ
CN7	COM2 コネクタ
CN8	ComapctFlash コネクタ
CN9	3.5 インチ E-IDE
CN10	2.5 インチ E-IDE

2.4 ドータボードのピンアサイン

CN4 : 2.5 インチノートブック用 FDD コネクタ

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	HDSEL#	2	GND
3	RDATA#	4	GND
5	WRTPR#	6	GND
7	TRK0#	8	GND
9	WGATE#	10	GND
11	WDATA#	12	GND
13	STEP#	14	DRVEN0
15	FDIR#	16	NC
17	MTR0#	18	NC
19	NC	20	NC
21	DSHG#	22	VCC
23	DS0#	24	VCC
25	Index#	26	VCC

CN5 : パラレルポートコネクタ

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	Strobe#	2	Data0
3	Data1	4	Data2
5	Data3	6	Data4
7	Data5	8	Data6
9	Data7	10	Acknowledge
11	Busy	12	Paper Empty
13	Printer Select	14	Auto Form Feed#
15	Error#	16	Initialize
17	Printer Select IN#	18	GND
19	GND	20	GND
21	GND	22	GND
23	GND	24	GND
25	GND	26	GND

CN6 : COM 1 コネクタ

ピン NO.	説明
1	Data Carrier Detect1
2	Receive Data1
3	Transmission Data1
4	Data Terminal Ready1
5	GND
6	Data Set Ready1
7	Request To Send1
8	Clear To Send1
9	Ring Indicator1

CN7 : COM 2 コネクタ

ピン NO.	説明
1	Data Carrier Detect2
2	Receive Data2
3	Transmission Data2
4	Data Terminal Ready2
5	GND
6	Data Set Ready2
7	Request To Send2
8	Clear To Send2
9	Ring Indicator2

CN8 : CompactFlash コネクタ

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	GND	2	Data3
3	Data4	4	Data5
5	Data6	6	Data7
7	Card Enable1#	8	Address10(GND)
9	ATA Select#(GND)	10	Address9(GND)
11	Address8(GND)	12	Address7 (GND)
13	VCC	14	Address6(GND)
15	Address5(GND)	16	Address4 (GND)
17	Address3(GND)	18	Address2
19	Address1	20	Address0

第2章 初期設定と実装

2 1	Data0	2 2	Data1
2 3	Data2	2 4	IOIS#(NC)
2 5	Card Detection2#(NC)	2 6	Card Detection1#(NC)
2 7	Data11	2 8	Data12
2 9	Data13	3 0	Data14
3 1	Data15	3 2	Card Enable2#
3 3	Vcc Voltage Sense1#(NC)	3 4	I/O Read#
3 5	I/O Write#	3 6	Write Enable#(Vcc)
3 7	Interrupt Request	3 8	Vcc
3 9	Card Select#	4 0	VccVoltageSense2#(NC)
4 1	Reset#	4 2	I/O Ready
4 3	Input Acknowledge#(NC)	4 4	Vcc
4 5	DiskActive/Slave Present#	4 6	Pass Diagnostic#
4 7	Data8	4 8	Data9
4 9	Data10	5 0	GND

CN9 : 3.5 インチ IDE コネクタ

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	Reset#	2	GND
3	Data7	4	Data8
5	Data6	6	Data9
7	Data5	8	Data10
9	Data4	1 0	Data11
1 1	Data3	1 2	Data12
1 3	Data2	1 4	Data13
1 5	Data1	1 6	Data14
1 7	Data0	1 8	Data15
1 9	GND	2 0	NC
2 1	DMA Request#	2 2	GND
2 3	IO Write#	2 4	GND
2 5	IO Read#	2 6	GND
2 7	IO Ready	2 8	NC
2 9	DMA Acknowledge#	3 0	GND
3 1	Interrupt	3 2	NC
3 3	Address1	3 4	PDIAG#
3 5	Address0	3 6	Address2
3 7	Chip Select0#	3 8	Chip Select1#
3 9	DASP#	4 0	GND

CN10 : 2.5 インチ IDE コネクタ

ピン NO.	説明	ピン NO.	説明
1	Reset#	2	GND
3	Data7	4	Data8
5	Data6	6	Data9
7	Data5	8	Data10
9	Data4	10	Data11
11	Data3	12	Data12
13	Data2	14	Data13
15	Data1	16	Data14
17	Data0	18	Data15
19	GND	20	NC
21	DMA Request#	22	GND
23	IO Write#	24	GND
25	IO Read#	26	GND
27	IO Ready	28	NC
29	DMA Acknowledge#	30	GND
31	Interrupt	32	NC
33	Address1	34	PDIAG#
35	Address0	36	Address2
37	Chip Select0#	38	Chip Select1#
39	DASP#	40	GND
41	Vcc	42	Vcc
43	GND	44	NC

第3章

BIOSセッティングアップ

3.1 メニューと項目

BIOS のセットアップでは、システムの基本的な設定を行ないます。設定内容はバッテリーでバックアップされた CMOS RAM に保存されます。

セットアップ画面の呼び出し

本製品の電源を投入した時にすぐに <F2> キーを押すとセットアップ画面を呼び出すことができます。

セットアップ画面でのキー操作について

	前の項目に移動します。
	次の項目に移動します。
	左の項目に移動します。
	右の項目に移動します。
Esc	メインメニューにいるとき - 変更を保存しないで終了します。 他のメニューにいるとき - メインメニューに戻ります。
PgUp / "+"	数値を増やすか、設定を変更します。
PgDn / "-"	数値を減らすか、設定を変更します。
F1	ヘルプを表示します。ただし、メインメニューでは表示しません。
F9	BIOS のデフォルトテーブルよりデフォルトの CMOS の値を呼び出します。ただし、下のウィンドウに F6 キーの説明が出ていないときには機能しません。
F10	すべての設定を保存します。ただし、メインメニューにいるときのみ機能します。

ヘルプ画面呼び出し

メインメニューにいるときは、画面の下部に選択した項目の説明が表示されます。

その他のメニューにいるときは <F1> キーを押すとヘルプ画面がポップアップ表示されます。ヘルプ画面を抜け出すには、<F1> キーか <Esc> キーを押します。

メニューと項目

メニューは以下の4つに分かれていますが、さらに Main メニューと Advanced メニューには、より詳細な設定を行うためのサブメニューが用意されています。

実際のメニュー画面では、設定不要な項目は表示されません。

以降、各メニューの項目の詳細について説明します。

メニュー名	内容
Main	日時やドライブの設定などの基本的なシステムコンフィグレーションに関する設定を行います。
Advanced	内蔵機器のポートアドレスやチップセットに関連した高度な設定を行います。
Power	省電力モードに関する設定を行います。
Exit	BIOS SETUP の終了、設定値の変更および保存を行います。

3.2 Main メニュー

System Time : 時 : 分 : 秒を設定します。

System Date : 月 / 日 / 年 (西暦) を設定します。

LegacyDiskette A : フロッピーディスクドライブ A を使用するかどうかを設定します。
使用可能なフロッピーディスクドライブは、3.5 インチ 1.44MB のみです。

Disabled : フロッピーディスクドライブを使用しません。
1.44MB 3¹/₂ : 3.5 インチ 1.44MB ドライブを使用します。

LegacyDiskette B : フロッピーディスクドライブ B を使用するかどうかを設定します。
使用可能なフロッピーディスクドライブは、Diskette A と同様です。

Primary Master : マスタードライブのハードディスクタイプ (容量やシリンダ数など) を設定します。

Primary Slave : スレーブドライブのハードディスクタイプ (容量やシリンダ数など) を設定します。

Boot Feature : 起動ドライブの設定を行います。

Cache Memory : メモリキャッシュの設定を行います。

System Memory : 基本メモリ容量が表示されます。この項目は、POST 時に自動的に検出します。変更はできません。

Extended Memory : 拡張メモリ容量が表示されます。この項目は、POST 時に自動的に検出します。変更はできません。

3.3 Main メニューのサブメニュー

ここでは、Main メニューのサブメニューについて説明します。

(1) ハードディスク詳細設定

Type : ハードディスクの接続の有無や各パラメタを設定します。

Auto	自動的にハードディスクの接続の有無やタイプを設定します。接続されている場合、各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）はハードディスクの情報に従って自動的に設定されます。
None	ハードディスクを未接続とします。
CD-ROM	CD-ROM (IDE) を接続します。
ATAPI Removable	ATAPI Removable デバイスを接続します。
User	各パラメタ（シリンダ数、ヘッド数、セクタ数、プリコンプ値）を直接指定します。

Multi_Sector Transfers : 複数のセクタのデータを一括して転送するかどうかを設定します。Type に CD-ROM、ATAPI Removable または User を指定した場合に設定可能です。

Disabled	1 セクタずつ転送します。
2 Sectors ~ 16 Sectors	一括して転送するセクタ数を選択します。数値が大きくなるほどデータの転送速度は上がりますが、一括転送の効果が現れるセクタ数は、ドライブのキャッシュ容量に左右されます。

LBA Mode Control LBA : LBA（論理ブロックアドレッシング）モードを使用するかどうかを設定します。Type に CD-ROM、ATAPI Removable または User を指定した場合に設定可能です。

Disabled	LBA モードを使用しません。
Enabled	LBA モードを使用します。Enabled を設定する場合は、LBA モードに対応したドライブが必要です。

32 Bit I/O : 内蔵 IDE コントローラと CPU の間で 32 ビット転送を行うかどうかを設定します。Type に Auto、CD-ROM、ATAPI Removable または User を指定した場合に設

定可能です。

Disabled 32-Bit I/O を使用しません。

Enabled 32-Bit I/O を使用します。

Transfer Mode : データの転送モードを設定します。Type に CD-ROM、ATAPI Removable または User を指定した場合に設定可能です。

各モードの設定では数値が大きくなるほど転送速度が上がりますが、設定した各モードに対応したドライブが必要です。

Standard PIO Mode 0 に設定します。

Fast PIO 1 ~ 4 Fast PIO Mode 1 ~ 4 のいずれかを選択します。

FPIO 3/DMA 1 Fast PIO Mode 3 または DMA Mode 1 を使用します。

FPIO 4/DMA 2 Fast PIO Mode 4 または DMA Mode 2 を使用します。

Ultra DMA Mode : Ultra DMA Mode を使用するかどうかを設定します。Type に CD-ROM、ATAPI Removable または User を指定した場合に設定可能です。

Disabled Ultra DMA Mode を使用しません。

Mode 0 ~ 2 Ultra DMA の転送モードを選択します。Ultra DMA Mode を設定する場合は、Ultra DMA Mode に対応したドライブが必要です。

(2) Boot Feature 設定

Boot-time Diagnostic Screen : POST 時の診断画面やメッセージを表示するかどうかを指定します。

Enabled POST の診断画面やメッセージを表示します。

Disabled POST の診断画面やメッセージを表示せずに、ロゴ (グラフィックイラスト) のみを表示します。

QuickBoot Mode : QuickBoot を行うかどうかを指定します。

Enabled メモリチェックなどを簡素化し、POST 処理を短縮します。

Disabled 通常の POST 処理を行います。

Boot Device Priority : 起動ドライブの優先順位の設定を行います。

(3) CacheMemory 設定

External Memory : 2次キャッシュ (L2 キャッシュ) を使用するかどうかを指定します。

Disabled L2 キャッシュを使用しません。

Enabled L2 キャッシュを使用します。

Cache System BIOS Area : システム BIOS のエリアをキャッシュ対象とするかどうかを指定します。

Disabled システム BIOS のエリアをキャッシュ対象としません。

Enabled システム BIOS のエリアをキャッシュ対象とします。

Cache Video BIOS Area : ビデオ BIOS のエリアをキャッシュ対象とするかどうかを指定します

Disabled ビデオ BIOS のエリアをキャッシュ対象としません。

Enabled ビデオ BIOS のエリアをキャッシュ対象とします。

(4) Boot Device Priority 設定

起動ドライブの優先順位を設定します。以下のキー入力を行うことによって優先順位の変更および、そのドライブからの Boot を有効にするか無効にするか設定することができます。

+ キー : カーソルのあるエントリを上位の優先順位にします。

- キー : カーソルのあるエントリを下位の優先順位にします。

Shift + 1 キー : そのドライブから Boot を有効にするか無効にするかを切り替えます。

Enter キー : 各エントリの前に+がある場合は、詳細情報を表示します。各エントリの前に-がある場合は、詳細情報を非表示にします。

Removable Device : Removable なドライブからの Boot を行います。
Removable なドライブとは、ドライブレターが A となるドライブのことです。フロッピーディスクや LS-120 などがこれにあたります。
対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認することができます。

Hard Drive : ハードディスクからの Boot を行います。
IDE ディスク、SCSI ディスク、IDE インタフェースに準拠したデバイスなどがこれにあたります。
対象となるドライブについては、詳細情報を表示することによって確認することができます。

ATAPI CD-ROM Drive : ATAPI インタフェース準拠の CD-ROM からの Boot を行います。

注意

上記のドライブを IDE インタフェースの PrimarySlave に接続する場合は、Main メニューの PrimarySlave の設定を[Auto]に変更し、システムを再起動後、再度 Setup を起動してください。

3.4 Advanced メニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューについて説明します。

I/O Device Configuration : 内蔵機器の I/O ポートアドレスや割込みレベルの設定などを行います。

PS/2 Mouse : PS/2 タイプのマウスを使用するかどうかを指定します。
Disabled にしても、マウスで使用される IRQ12 は解放されません。

Enabled PS/2 タイプのマウスを使用します。

Disabled PS/2 タイプのマウスを使用しません。

Auto Detect マウスを自動検出します。

Installed O/S : Plug and Play OS を使用するかどうかを指定します。

Win95/Win98 Plug and Play OS を使用します。

Other 非 Plug and Play OS を使用します。

Enable ACPI : パワーマネジメントインタフェースとして ACPI を使用するかどうかを指定します。

Yes ACPI を使用します。

No ACPI を使用しません。

PCI Configuration : 外部 PCI スロットに対する資源の割当ての設定を行います。

Video Output : Video の出力先を指定します。なお、LCD（液晶ディスプレイ）表示時に使用可能な画面の解像度は、LCD の解像度に依存します。例えば、640×480 の LCD を使用している場合は、800×600 や 1024×768 の表示はできません。

CRT & LCD CRT と LCD を同時に表示します。

CRT only CRT のみ表示します。

LCD only LCD のみ表示します。

Hot plug : KeyBoardController の持つ HotPlug 機能の設定をします。

Enabled 使用します。

Disabled 使用しません。

3.5 Advanced メニューのサブメニュー

ここでは、Advanced メニューのサブメニューの項目について説明します。実際のメニュー画面では、設定不要な項目は表示されません。

(1) I/O Device Configuration 設定

COM port A : シリアルポート A の I/O ポートアドレスおよび IRQ (割込みレベル) を指定します。

Enabled 内蔵シリアルポート A を使用します。Enabled を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Base I/O address & IRQ

Base I/O Address および IRQ の組合せを以下の 4 種類の中から選択します。

3F8h, IRQ4

2F8h, IRQ3

3E8h, IRQ4

2E8h, IRQ3

Auto 内蔵シリアルポート A を使用します。Base I/O Address および IRQ は自動的に上記のいずれかに設定されます。

Disabled 内蔵シリアルポート A を使用しません。

**COM port B/
IR Port** : シリアルポート B の動作モード、I/O ポートアドレスおよび IRQ (割込みレベル) を指定します。シリアルポート B は IrDA ポートとしても使用されることがあるため、動作モードの設定を行います。

Enabled 内蔵シリアルポート B を使用します。Enabled を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Mode シリアルポート B の動作モードを選択します。

Serial COM ポートモードで動作します。

SIR IrDA (SIR) モードで動作します。

FIR IrDA (FIR) モードで動作します。

Base I/O address & IRQ Base I/O Address および IRQ の組合せを COM port A と同じ 4 種類の中から選択します。

DMA channel DMA チャンネルを指定します。動作モードに FIR を指定した場合にのみ設定可能です。

DMA 1 DMA チャンネル 1 を使用します。

DMA 3 DMA チャンネル 3 を使用します。

Auto

内蔵シリアルポート B を使用します。Auto を選択した場合は、動作モードのみを選択します。Base I/O Address および IRQ は自動的に COM port A と同じ 4 種類の中から設定されます。DMA チャンネルは、1 または 3 が自動的に設定されます。

Disabled 内蔵シリアルポート B を使用しません。

Parallel port : パラレルポートの動作モード、I/O ポートアドレス および IRQ (割込みレベル) を指定します。

Enabled 内蔵パラレルポートを使用します。Enabled を選択した場合は、以下の詳細設定項目が表示されます。

Mode 内蔵パラレルポートの動作モードを指定します。

Bi-directional 双方向モードで動作します。

ECP ECP モードで動作します。

EPP EPP モードで動作します。

Output only 単方向モードで動作します。

Base I/O address & IRQ Base I/O Address および IRQ の組合せを以下の 3 種類の中から指定します。Bi-directional、ECP または Output only を指定した場合に設定可能です。

278h, IRQ5

378h, IRQ7

378h, IRQ5

DMA channel DMA チャンネルを指定します。動作モードに ECP を指定した場合にのみ設定可能です。

DMA 1 DMA チャンネル 1 を使用します。

DMA 3 DMA チャンネル 3 を使用します。

(2) PCI Configuration 設定

PCI Device, Slot #n : PCI デバイスまたはスロット#1 ~ #4 のコンフィグレーションを行います。

PCI/PNP ISA X-Bus Exclusion : 接続のレガシーISA デバイスが使用する IRQ および PCI 接続の IRQ ResourceCardBus スロットに装着されたレガシーPC カードが使用する IRQ を予約します。

(3) PCI Device, Slot 設定

Option ROM Scan : PCI デバイ스에搭載されているオプション ROM をスキャンするかどうかを指定します。

Enabled スキャンします。
Disabled スキャンしません。

Enable Master : 接続されているデバイスを PCI バスマスターデバイスとして使用するかどうかを指定します。

Enabled バスマスターデバイスとして使用します。
Disabled バスマスターデバイスとして使用しません。

Latency Timer : バスマスターデバイスとして使用する場合の PCI バスの使用優先度を指定します。

Default 標準の優先度とします。
0020h ~ 00E0h 優先度を PCI バスクロック数で指定します。高速なデバイスに対して大きな値を指定すると、高い性能が得られます。

(4) PCI/PNP ISA IRQ Resource Exclusion 設定

IRQ n : ISA 割込み用に IRQ 10 および IRQ 11 を予約します。予約された IRQ は、X-Bus 接続のレガシーISA デバイス および CardBus スロットに装着されたレガシーPC カードで使用されます。

Available IRQ を予約しません。
Reserved IRQ を予約します。

備考

CardBus コントローラを PCI バスに接続している場合でも、ISA 割込みを必要とするレガシーPC カード (16 bit PC カード) を使用する際は ISA 割込み用の IRQ が必要です。本設定で ISA 割込み用の IRQ を予約しておく必要があります。

3.6 Power メニュー

Power Savings : APM インタフェースによる省電力モードのレベルを設定します。

Disabled 自動的に省電力モードに移行しません。ただし、ボタン押下による Suspend/Resume は行えます。

Customized 本メニューの Idle Mode 、 Standby Timeout および Auto Suspend Timeout の各項目を個別に設定できるようにします。

Maximum Performance パフォーマンスを重視した省電力モードに、Idle Mode 、 Standby Timeout および Auto Suspend Timeout の値を設定します。

Maximum Power Saving バッテリ稼働時間を重視した省電力モードに、Idle Mode 、 Standby Timeout および Auto Suspend Timeout の値を設定します。

注意

指定するモードによって、APM の状態は次のようになります。

Disabled 設定時 Disabled

Disabled 以外設定時 Enabled

ただし、Disabled を設定した場合でも Windows R 95 などの APM ドライバからの指定によって APM の状態を、Connect/Engage/Enable することができます。APM の状態は、通常、APM ドライバがロードされた時点で Enable になります。この場合の APM の設定は、以前に設定した Customized の値が使用されます。

Idle Mode : 一定時間キー入力やデータの入出力がない場合に、アイドルモードに移行するかどうかを設定します。アイドルモードでは、CPU のクロック速度が落ちた状態になります。

On アイドルモードに移行します。

Off アイドルモードに移行しません。

Standby Timeout : キー入力やデータの入出力がない場合に、自動的にスタンバイモードに移行するまでの時間を設定します。スタンバイモードでは、ディスプレイの表示が消えて、ハードディスクのスピンドルが停止した状態になります。

1 ~ 16Minutes スタンバイモードに移行するまでの時間を設定します。
Off 自動的にスタンバイモードに移行しません。

Auto Suspend : 自動的にサスペンドするまでの時間を設定します。
Timeout

5 ~ 60Minutes サスペンドするまでの時間を設定します。以下のサスペンドモード時の処理は、Suspend、Save To RAM を指定可能です。
Off 自動的にサスペンドモードに移行しません。サスペンドモード時の処理は、Suspend、Save To RAM または Save To Disk を 指定可能です。

Suspend Mode サスペンドモード時の処理を設定します。

Suspend メモリの内容を DRAM に退避し、CPU および各種 I/O を停止状態にします。

Save To RAM メモリの内容を DRAM に退避し、DRAM をセルフリフレッシュに、CPU および各種 I/O の電源を切断します。

Save To Disk メモリの内容をハードディスク上の Save To Disk 領域に退避してから、すべての電源を切断します。
Suspend モード、Save To RAM モードに比べてこのモードへの移行・復帰には時間がかかります。

Resume On : モデムの Ring 信号を検出して、サスペンド状態からレジ
Modem Ring ューム操作を行うかどうかを指定します。

Off レジュームしません。

On レジュームします。

Resume On : 指定した時刻に、サスペンド状態からレジュームするかどうかを指定します。
Time

Off レジュームしません。

On レジュームします。

Resume Time : Resume On Time (レジュームする時刻)を、時:分:秒の24時間で指定します。この設定は、Resume On Time が「On」のとき有効です。また、Save To Disk モ

ードでは意味をもちません。

Thermal Temperature : CPU の熱暴走を防止するための Thermal Throttle の状態を表示します。

Setting 画面に表示されるのみで、設定の変更はできません。表示される内容は Throttle 設定温度、設定の有無、Duty Mode の情報です。

Thermal Throttle Duty

注意

Throttle 設定温度 / 設定の有無 / Duty の値は、実際のメニュー画面の値と異なる場合があります。

3.7 Exit メニュー

Exit Saving Changes : 設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS SETUP を終了します。

Exit Discarding Changes : 設定内容を保存せずに、BIOS SETUP を終了します。

Load Setup Defaults : 設定内容を提供時の標準設定に戻します。

Discard Changes : CMOS RAM に保存されている設定を読み出して、前回の設定内容に戻します。

Save Changes : 現在の内容を CMOS RAM に保存します。

第4章

ドライバのインストール

4.1 VGA ドライバのインストール

Windows98 の場合

- 1) コントロールパネルの「画面」を開いてください。
- 2) 「ディスプレイの詳細」タブを開いて、「詳細プロパティ」ボタンをクリックしてください。
- 3) 「アダプタ」タブの「変更」ボタンをクリックします。
- 4) 「ディスク使用」のボタンをクリックします。
- 5) ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 6) フロッピーディスクが挿入してあるドライブ開き、「デバイスの選択」で「chips and tech.69030 AGP/PCI」を選択します。
あとは画面の指示にしたがってインストールを進めてください。

WindowsNT4.0 の場合

- 1) コントロールパネルの「画面」を開いてください。
- 2) 「ディスプレイの設定」タブを開いて、「ディスプレイの種類」ボタンをクリックしてください。
- 3) 「アダプタの種類」の「変更」ボタンをクリックしてください。
- 4) 「ディスプレイの変更」で「ディスク使用」ボタンをクリックします。
- 5) ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 6) フォルダ"¥ Winnt40"を開き、「デバイスの選択」で「chips and tech.69030 AGP/PCI」を選択します。
あとは画面の指示にしたがってインストールを進めてください。

Windows2000 の場合

- 1) [スタート] メニューの [設定] - [コントロールパネル] をクリックした後で、[システム] アイコンをダブルクリックします。
[システムのプロパティ] が表示されます。
次に、[ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
- 2) [ビデオコントローラ(VGA 互換)] ダイアログボックスの表示
[その他のデバイス] - [ビデオコントローラ(VGA 互換)] にマウスカーソルを移動し、右ボタンをクリックします。ショートカットメニューから [プロパティ] をクリックします。
- 3) [ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックします。
- 4) ドライバ格納ディスクを、フロッピーディスクドライブに挿入します。
- 5) [次へ] ボタンをクリックします。
- 6) 「このデバイスの既知のドライバを表示して、この一覧から選択する」をクリックし、[次へ] ボタンをクリックします。
- 7) [ディスプレイアダプタ] をクリックし、[次へ] ボタンをクリックします。
- 8) [ディスク使用] ボタンをクリックします。
- 9) [配布ファイルのコピー元] を [A:¥] に変更し、[OK] ボタンをクリックします。
- 10) 「 Chips and Technologies 69030 」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
- 11) [次へ] ボタンをクリックします。
- 12) [完了] ボタンをクリックします。
- 13) [アダプタのプロパティ] ダイアログボックスを閉じ、再起動してください。

4.2 LAN ドライバのインストール

Windows98 の場合

- 1)コントロールパネルの「ネットワーク」を開いてください。
- 2)「追加」ボタンをクリックし、アダプタボタンを選んで追加ボタンをクリックしてください。
- 3)製造元リストの「Realtek」を選び、ネットワークアダプタは「Realtek RTL8139 PnP LAN アダプタまたはその互換製品」を選択してください。
- 4)プロパティボタンを押し、「リソース」タブで IRQ や I/O ポートとアドレスが競合していないか確認してください。
最後にコンピュータを再起動してください。

WindowsNT4.0 の場合

- 1)コントロールパネルの「ネットワーク」を開いてください。
- 2)アダプタの「追加」ボタンをクリックしてください。
- 3)「ネットワークアダプタの選択」で「ディスク使用」ボタンをクリックします。
- 4)RTL 8139 LAN DRIVER ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 5)フォルダ"A:¥"を開き、OK をクリックします。
- 6)次に「Input Ethernet ID」ダイアログが表示されます。これは2つ以上の「Realtek RTL8139」ボードを使用するときに設定する必要があります。
1枚だけのときは"Skip"を選んでください。
- 7)次のバスアロケーションの設定ダイアログでは、種類をISA、番号を0としてください。
そして、OK をクリックしてください。
最後にコンピュータを再起動してください。

Windows2000 の場合

- 1) コントロールパネルの「システム」を開き、「ハードウェア」タブの「ハードウェアウィザード」ボタンをクリックします。
- 2) 「次へ」ボタンを押して「デバイスの追加/トラブルシューティング」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。
- 3) デバイスでイーサネットコントローラを選択し、そのまま「完了」ボタンを押します。
- 4) 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されますので「次へ」ボタンを押します。
- 5) RTL 8139 LAN DRIVER ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 6) 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し「次へ」ボタンを押します。
- 7) 画面に“ a:¥win2000¥netrts5.inf ”と表示されていれば「次へ」ボタンを押します。
そのまま「はい」ボタンを押して完了してください。
もし、画面に表示されていない場合は、「別のドライバを1つインストールする」をチェックして「次へ」ボタを押します。
“ a:¥win2000¥netrts5.inf ”を選択して次に進み完了してください。

第5章

その他の機能

5.1 ウォッチドッグタイマ機能

本ボードに搭載しているウォッチドッグタイマを使用することにより、プログラムが永久ループに入ったり、CPUの暴走などの異常を検出することができます。

ウォッチドッグタイマコントロールレジスタ				I/Oアドレス=300h		Output	
Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0
-	-	WDTC	WDTS	-	WDT2	WDT1	WDT0

WDTC、WDTS

本ビット群で、ウォッチドッグタイマのディゼーブル/イネーブルおよび、動作モードの設定をします。

- 0 0 : ウォッチドッグタイマをディゼーブルにする。
- 0 1 : ウォッチドッグタイマをディゼーブルにする。
- 1 0 : ウォッチドッグタイマ (R E S E Tモード) をイネーブルにする。
- 1 1 : ウォッチドッグタイマ (N M Iモード) をイネーブルにする。

WDT2 ~ WDT0

本ビット群への設定値が、ウォッチドッグタイマのタイムアウト値として設定されます。

- 0 0 0 : 1 秒に設定
- 0 0 1 : 2 秒に設定
- 0 1 0 : 4 秒に設定
- 0 1 1 : 8 秒に設定
- 1 0 0 : 1 6 秒に設定
- 1 0 1 : 3 2 秒に設定
- 1 1 0 : 6 4 秒に設定
- 1 1 1 : 1 2 8 秒に設定

ウォッチドッグタイマロードレジスタ I/O アドレス=300h Input

Bit7	Bit6	Bit5	Bit4	Bit3	Bit2	Bit1	Bit0
-	-	-	-	-	-	-	-

本レジスタをリードすると、WDT2 ~ WDT0 の設定値がウォッチドッグタイマへ再設定されます。リード時のデータは意味のないデータです。

第 6 章

製品仕様

本製品の製品構成を以下に示します。

型番	品名
a P C I - 8 0 1 0 / 4 B	CompactPCI Cerelon 400MHz
a P C I - 8 0 1 0 / 4 S	CompactPCI Cerelon 400MHz (FDD / HDD 搭載)
a P C I - 8 0 1 0 / 4 F	CompactPCI Cerelon 400MHz (FDD / HDD搭載、CD - ROMドライブ付属)
a P C I - 8 0 1 0 / 5 B	CompactPCI Pentium 500MHz
a P C I - 8 0 1 0 / 5 S	CompactPCI Pentium 500MHz (FDD / HDD搭載)
a P C I - 8 0 1 0 / 5 F	CompactPCI Pentium 500MHz (FDD / HDD搭載、CD - ROMドライブ付属)

注意： HDD の容量または CD - ROM ドライブは弊社までご確認ください。

a P C I - 8 0 1 0 / 4 ×仕様 (×はB、S、Fのうちいずれか)

項目	仕様
C P U	Intel モバイル Celeron プロセッサ 400MHz
FSB	100MHz
システムメモリ	64MB (最大 128MB) 144 ピン SO-DIMM PC100 対応
キャッシュ メモリ	L1 - 32KB L2 - 128KB
B I O S	Phoenix Technologies PhoenixPICO BIOS4.0
チップセット	Intel 製 440BX AGPSet 82443BX (CPU - ISA)
V G A	コントローラ : Chips and Technologies 69030 VRAM 容量 : 4MB 最大解像度 : 1600 × 1200(65,536 色) 最大表示色 : 1280 × 1024(1,677 万色)
シリアルポート	RS-232C×2 ポート 非同期転送 (調歩同期) 16550 互換
パラレルポート	×1 ポート
KB/マウス	×1 (分岐ケーブル付属)
USB	×2 ポート
L A N	10/100Base-T REALTEK 社製 RTL8139C(L)
CompactFlash	TypeI または TypeII×1 スロット
E-IDE	×1 (UltraDMA/33 対応)
FDD	×1 2 モード対応 (720MB / 1.44MB)
その他	ブザー ×1
H D D	a P C I - 8 0 1 0 / 4 S、a P C I - 8 0 1 0 / 4 F に 搭載
CD-ROM ドライブ	a P C I - 8 0 1 0 / 4 F に付属
外形寸法	CompactPCI 規格準拠 3 Uサイズ (160mm × 100mm コネクタ / パネル部を除く) 右端システムスロットのバックプレーンを使用すること により、他スロットをすべて他のボードに割り当て可能。

第6章 製品仕様

パネル	幅： a P C I - 8 0 1 0 / 4 B 2スロット (8 H P) a P C I - 8 0 1 0 / 4 S 4スロット (1 6 H P) a P C I - 8 0 1 0 / 4 F 4スロット (1 6 H P) 高さ： 3 U
電源電圧	5 V (+ 1 2 V はパネル面に出力)
重量 1	約 470 g
動作環境 1	動作周囲温度 : 0 ~ + 50 動作周囲湿度 : 30% ~ 90%RH 保存周囲温度 : - 20 ~ + 65 保存周囲湿度 : 10 ~ 95%RH
保証期間	3年間 (36 ヶ月) (オプション品をのぞく)

1 FDD、HDD、CD - ROM は含みません。

a P C I - 8 0 1 0 / 5 ×仕様 (×はB、S、Fのうちいずれか)

項目	仕様
C P U	Intel モバイル Pentium プロセッサ 500MHz
FSB	100MHz
システムメモリ	128MB (最大 128MB) 144 ピン SO-DIMM PC100 対応
キャッシュ メモリ	L1 - 32KB L2 - 128KB
B I O S	Phoenix Technologies PhoenixPICO BIOS4.0
チップセット	Intel 製 440BX AGPSet 82443BX (CPU - ISA)
V G A	コントローラ : Chips and Technologies 69030 VRAM 容量 : 4MB 最大解像度 : 1600 × 1200(65,536 色) 最大表示色 : 1280 × 1024(1,677 万色)
シリアルポート	RS-232C×2 ポート 非同期転送 (調歩同期) 16550 互換
パラレルポート	×1 ポート
KB/マウス	×1 (分岐ケーブル付属)
USB	×2 ポート
L A N	10/100Base-T REALTEK 社製 RTL8139C(L)
CompactFlash	TypeI または TypeII×1 スロット
E-IDE	×1 (UltraDMA/33 対応)
FDD	×1 2 モード対応 (720MB / 1.44MB)
その他	ブザー ×1
H D D	a P C I - 8 0 1 0 / 5 S、a P C I - 8 0 1 0 / 5 F に 搭載
CD-ROM ドライブ	a P C I - 8 0 1 0 / 5 F に付属
外形寸法	CompactPCI 規格準拠 3 Uサイズ (160mm × 100mm コネクタ / パネル部を除く) 右端システムスロットのバックプレーンを使用すること により、他スロットをすべて他のボードに割り当て可能。

第6章 製品仕様

パネル	幅： a P C I - 8 0 1 0 / 5 B 2スロット (8 H P) a P C I - 8 0 1 0 / 5 S 4スロット (1 6 H P) a P C I - 8 0 1 0 / 5 F 4スロット (1 6 H P) 高さ： 3 U
電源電圧	5 V (+ 1 2 V はパネル面に出力)
重量 1	約 470 g
動作環境 1	動作周囲温度 : 0 ~ + 50 動作周囲湿度 : 30% ~ 90%RH 保存周囲温度 : - 20 ~ + 65 保存周囲湿度 : 10 ~ 95%RH
保証期間	3 年間 (36 ヶ月) (オプション品をのぞく)

1 FDD、HDD、CD - ROM は含みません。

E-mail

240-0005

134 YBP

1F

Tel 045-333-0335

Fax 045-331-7770

E-mail support@adtek.co.jp

10

12

1

5

CompactPCI
CPU

1 2001 11 05

240-0005

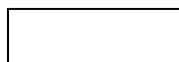
134

YBP

1F

el 045-331-7575

Fax 045-331-7770



CPCI-048-011105

© ADTEK SYSTEM SCIENCE Co.,Ltd. 2001